全業種
All types of business

業況感プラスを維持（総評）

今期の総合業況判断D I は5.4（前期3.9）となり、前期から1.5ポイント上昇し、6期連続のプラスとなった。
業種別に見ると、建設業14.4ポイント、製造業5.9ポイント上昇し、D I 値もプラス。D I 値はマイナスながら、小売業は4.3ポイント、サービス業は1.4ポイントとそれぞれ上昇した。一方で、不動産業は17.6ポイントと大幅に低下しD I 値マイナスに転じ、卸売業は2.8ポイント低下し、2期連続でD I 値マイナスとなった。
総合売上額D I は全体で10.9（前期5.9）となり、5.0ポイントの上昇。建設業が8.8ポイント、製造業が7.4ポイント上昇した一方、小売業が5.7ポイント、サービス業が3.1ポイント低下した。
収益D I は全体で9.4（前期3.4）となり、6.0ポイントの上昇。建設業が18.9ポイント、製造業が12.9ポイント上昇し、全体を引き上げた。
また、全ての業種で人手不足感が続いており、特に建設業、製造業でその傾向が強い。

景況天気図

<table>
<thead>
<tr>
<th>時期</th>
<th>平成28年</th>
<th>平成29年</th>
<th>見通し</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>業種名</td>
<td>1〜3月</td>
<td>4〜6月</td>
<td>7〜9月</td>
</tr>
<tr>
<td>全体</td>
<td>404 (100%)</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>製造業</td>
<td>69 (17%)</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>卸売業</td>
<td>70 (17%)</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>小売業</td>
<td>70 (17%)</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>サービス業</td>
<td>67 (17%)</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>建設業</td>
<td>71 (18%)</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>不動産業</td>
<td>57 (14%)</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

D.I.〜

〜30.0未満
〜10.0未満
〜30.0未満
〜30.0以上

低調

（大雨）
（小雨）
（くもり）
（晴れ）
（快晴）

好調
『業況』
6期連続プラス
今期の業況感は5.4（前期3.9）となり、対前期1.5ポイントの上昇。DⅠ値は6期連続でプラスとなった。
来期も7.2となり、DⅠ値のプラスを維持できる見込み。
規模別では、従業員が1人以上4人以下の中規模企業で、DⅠ値マイナス。その他の規模の企業はDⅠ値プラスで、特に10人以上19人以下の企業で大きくプラスとなった。

『売上額・収益』
売上額・収益ともに改善
売上額DⅠは今期10.9（前期5.9）となり、前期比で5.0ポイント上昇した。
収益DⅠは今期9.4（前期3.4）となり、前期比で6.0ポイント上昇した。
来期は売上額、収益ともに若干悪化するも、それぞれDⅠ値のプラスは維持できる見込み。
規模別では、売上額、収益ともに10人以上19人以下、および20人以上の企業で大きくプラスとなった。

『在庫』
過剰感解消に至らず
今期の在庫DⅠは▲2.1（前期▲4.7）と前期比で2.6ポイント上昇となったが、過剰感の解消には至らず。
来期の在庫DⅠは▲0.6と1.5ポイント上昇し、わずかながら過剰感は解消される見込み。
規模別では、従業員数が4人以下、および20人以上の規模の企業において過剰感が解消されていないが、10人以上19人以下の規模の企業ではやや不足感が生じている。
『資金繰り』
資金繰りやや改善
今期の資金繰り DIは▲10.7（前期▲13.8）と前期比で3.1ポイント上昇し、やや改善した。
来期の資金繰り DIは▲9.4と1.3ポイント上昇もDI値マイナスが続く見込みである。
規模別では、すべての規模で、DI値マイナス。対前期1人以上4人以下、5人以上9人以下の企業は改善。10人以上19人以下の企業で悪化となった。

『雇用』
人手の不足感、過去最高
雇用に関する DIは、今期15.1（前期11.4）となり、前期比3.7ポイント上昇し、平成20年3月期以降最高の不足感となった。
来期は14.6とやや改善の見通しも、依然として不足感は大きなものとなっている。
規模別に見ると、全ての規模の企業で不足感が表れており、規模に関わらず不足感が継続していることが窺える。

『設備』
不足感継続
今期の設備過不足 DIは8.6（前期7.1）となり、前期比1.5ポイント上昇。やや不足感が強まっている。
来期も不足感の解消には至らない予想となっている。
規模別に見ると、特に20人以上の規模の企業で不足感が強まる傾向が表れている。